

全国の幼稚園・保育園の子どもたちを“思いやり心”で結ぶ

子どもの森づくり運動 東北復興グリーンウェイブ2012 参加園募集案内



NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
Tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
メール info@kodomono-mori.net

●子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」とは

2012年秋、「子どもの森づくり運動」のこれまでの活動に積み上げる「東日本大震災」支援活動、「東北復興グリーンウェイブ」のご提案です。全国の幼稚園・保育園の子どもたちが、被災地で拾われた“どんぐり”を苗木に育てて被災地に届ける活動によって、「生物多様性」な東北の森の再生に寄与します。同時に、この活動を通じて、東北の幼稚園・保育園と全国の幼稚園・保育園の子どもたちが「互いに相手のことを思いやる心」を育む機会を提供したいと思います。

「子どもの森づくり運動」は、「木を植えて、子どもの心を育む」をテーマに、子どもたちが“生きる力”を育むことを目指して活動してまいりました。そして「東北復興グリーンウェイブ」の活動では、「東日本大震災」以降の未来を生きる子どもたちにとって、もっとも重要な価値観となるであろう「共に生きる(共生)力」を育んでもらうことを目指します。

活動の趣旨にご共感いただき、多くの幼稚園・保育園にご参加いただけることを願っています。

参加ご希望の園は、別紙申込み用紙にて事務局までお申し込み下さい。

1)子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動趣旨

子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動宣言！
～“たくましく生きる力”を、“共にたくましく生きる力”へ～



①全国の幼稚園・保育園の子どもたちが、被災地のどんぐりを育てる活動によって、東北のふるさとの森の「生物多様性」的な復興と子どもたちの心の復興に寄与します。

②どんぐりの苗木を育てる活動の過程で、東北の子どもたちと全国の子どもたちが互いに思いやり、“共に生きる心”を育みます。

③全国の幼稚園・保育園の活動を、「グリーンウェイブ」を通じて世界の子どものための環境活動に繋がります。

2)子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動概要

●2012年秋



「子どもの森づくり運動」東北のネットワーク園の子どもたちが、被災地でどんぐりを拾い、①園でポットやプランターに植えます。②さらに、拾ったどんぐりは、事務局経由で全国の「東北復興グリーンウェイブ」活動参加園（以下活動参加園）に送られ、それぞれの園でも植えられます。

●2013年春



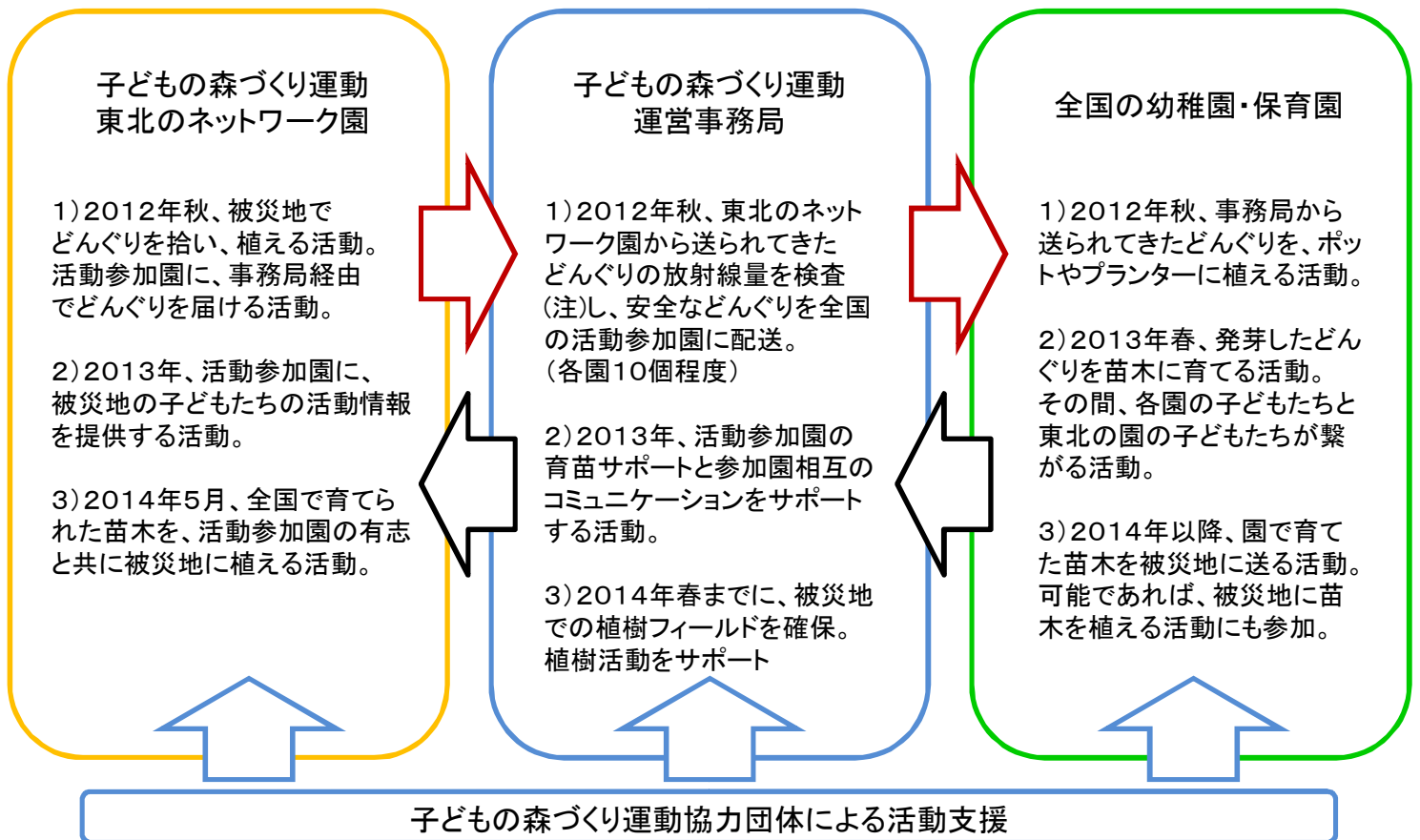
植えられたどんぐりは、全国の幼稚園・保育園で春に一斉に発芽します。苗木を育てる子どもたちは被災地の子どもたちを、被災地の子どもたちはどんぐりを育てている全国の子どもたちを互いに思い合いながら、大切に苗木として育てます。

●2014年春



それぞれの活動参加園で育てられた苗木は、事務局経由で被災地に送り返され、2014年5月22日（予定）、「グリーンウェイブ」の日に、全国の活動参加園有志によって被災地に植えられます。

3)子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ活動の流れ」



* (注)東北で拾われたどんぐりは、配送前に「株式会社理研分析センター」によって放射線量のサンプル検査を実施します。

■子どもの森づくり運動とは

「木を植えて、子どもの心を育む」をテーマに、デジタルな環境に取り囲まれ、本物の体験から遠ざけられている現代の幼少期の子どもたちに、幼稚園、保育園を拠点に、①森でどんぐりを拾い、②園で育て、③植える、という一貫した森づくり活動を通じて、「生きる力」と「環境意識」を育むことを目的とした自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。2008年から活動が始まり、2012年現在、全国で約60園の幼稚園・保育園にご参加いただいています。

一年目
種を拾ってプランターに植える



二年目
園で苗木に育てる



三年目
植樹フィールドに植える



●「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 (順不同)

(社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会 (社)国土緑化推進機構 全国森林インストラクター会
NPO法人CCC 富良野自然塾 (社)日本オート・キャンプ協会 (株)実業之日本社 「月刊ガルヴィ」

子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」被災地からのメッセージ

岩手県・社会福祉法人三心会 山田町第一保育所 所長 阿部 哲雄

昨年、3月11日の東日本大震災に伴う大津波により、当町の中心市街地は、大津波に流されるとともに、その後に発生した火災によって壊滅し、一面瓦礫の山と焦土と化してしまい、筆舌に尽くしがたい状態になりました。当保育所は、比較的高台に位置していることから、私でさえ想定していなかった大津波は、当保育所まで押し寄せ、園舎は、床上浸水して一面泥をかぶってしまいました。



保育所に押し寄せる津波

震災当日、子どもたちは午睡から目覚めの時間でありましたので、あの地震の後、ただちに子どもたちを園庭に避難させ、着替えをさせるとともに点呼を行いました。その内、大津波警報が発令になりましたので、「まさかここまで津波は来ないだろう。」と思いつつも、「もしかしたら来るかもしれない。来たらこの子どもたちはどうなる。」という思いが強くなり、保育所裏山のさらに高台へ避難させました。



園庭に避難、お着替え、点呼

その後、避難所での不自由な生活を余儀なくされた子どもたちが、相当数に上ったことと保護者の方々の毎日の負担を少しでも軽減できればと、保育所の早期再開を目指したのですが、最低限のライフラインである電気と水道の復旧のめどが立たない困難な状況の日々が続き、保育所を再開する判断が、なかなかできませんでした。3月末になって、やっと電気の復旧のめどが立ったことから、4月7日からの保育所の再開を決断し、給食については、再開と同時に完全給食としました。



津波が去って

再開した当時の子どもたちには、表情がなく、目の焦点も定まらないような状態で、保育所の中は、子どもたちの歓声が聞こえることもなく静まり返った日々が続きました。本来の、子どもらしさを取り戻すまでに約半年を要し、11月頃になって歓声が普通に聞こえるようになり、現在では、普通の保育所の状態に戻っております。

私たちの使命は、保育所に入所している子どもたちが、大人になった時、夢と希望をもって、新たな町づくりの中心的な役割を担う人材に育てることだと考えております。震災以降今日まで、全国の保育所の関係者の皆さんや全国津々浦々の皆さんから、保育所再生に向けて、物心両面にわたって力強いご支援と、心温まる励ましをいただき、お陰様で、困難な時期を乗り越え、現在へ繋げることが出来ました。これらのご支援に心から感謝申し上げますと共に、これから始まる『子どもの森づくり運動「復興グリーンウェイブ」』の活動に期待したいと思います。

* 写真提供：山田町第一保育所